

汚泥再生処理センター建設に係る  
生活環境影響調査  
(概要版)



令和4年2月  
みよし広域連合

## はじめに

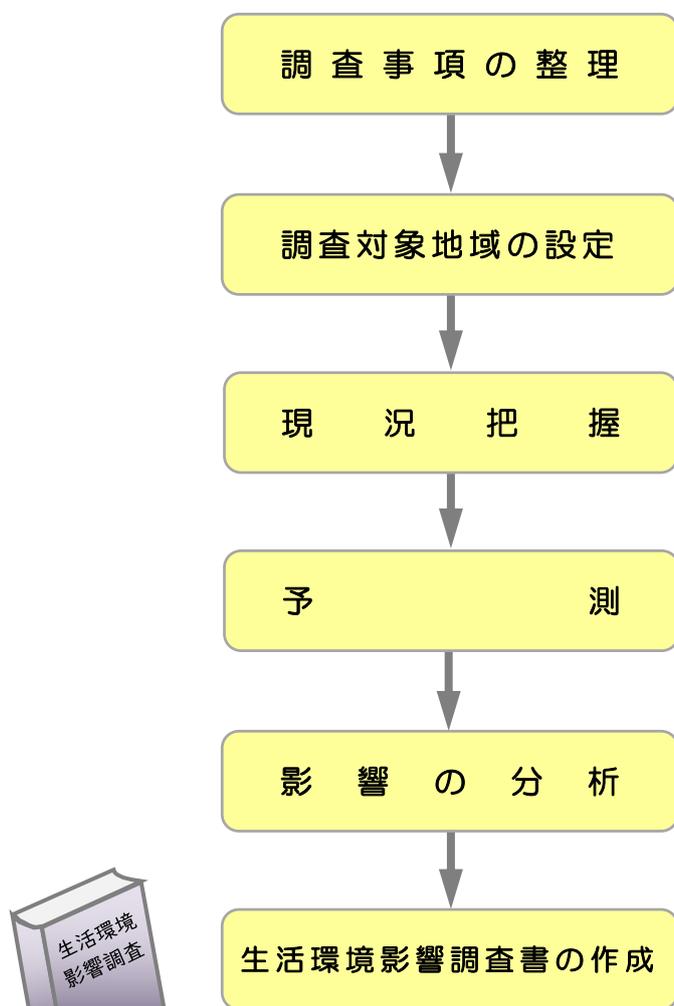
みよし広域連合が管理運営する浄化センターは、昭和42年度に供用を開始して以降、段階的な処理能力の増強等を行うとともに、平成9～11年度にかけては施設全体の改修を行ってきました。

これまでに、浄化センターを構成する設備機器について、適宜、更新・整備等を行い、し尿等の適正処理に努めてきましたが、各種設備機器の老朽化が顕在化し、更新等の対応が必要となりました。

以上のような状況のもと、浄化センターの稼働を行いつつ、し尿等の適正かつ安定的処理を行うことを目的として、段階的に施設整備を行う事業を計画しています。

## 生活環境影響調査とは

生活環境影響調査は、事業の実施に当たって、その事業が環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが、調査・予測・影響の分析を行い、それらを踏まえて環境の保全の観点からより良い事業計画を作り上げていこうという制度です。今回、事業予定地周辺の現況調査、予測及び影響の分析を以下の手順に従って整理し「生活環境影響調査書」を作成しました。



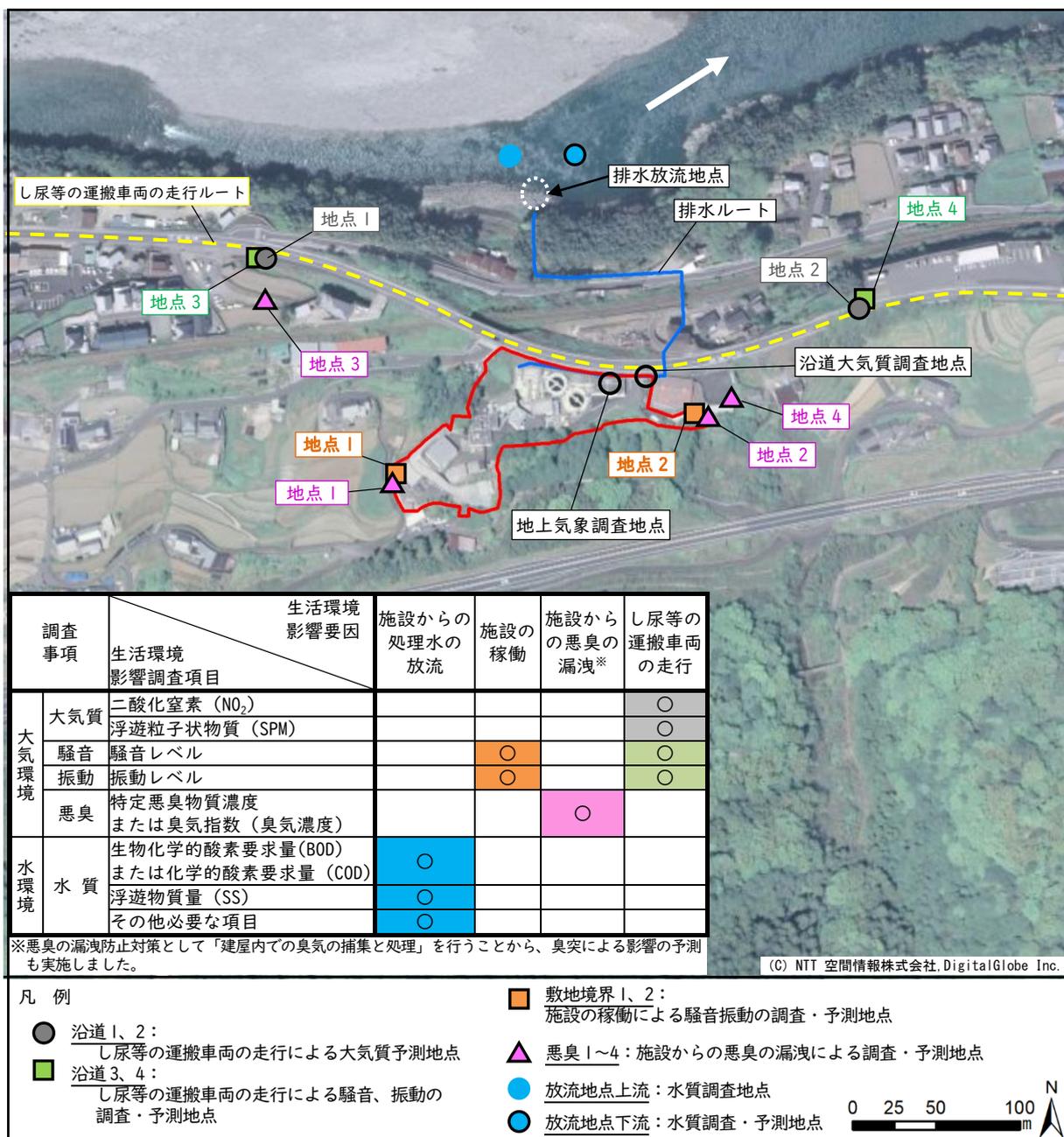
出典：「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」  
(平成18年9月 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部)

生活環境影響調査の手順

## 施設計画の概要

処理対象廃棄物	一般廃棄物（し尿、浄化槽汚泥、農業集落排水処理汚泥）
処理量	日処理量 し尿 : 13kL/日 浄化槽汚泥 : 47kL/日（農業集落排水処理汚泥含む）
施設の種類	一般廃棄物処理施設（し尿処理施設）
運転計画	<p>【搬入時間】</p> <p>平日：午前 8 時 30 分～午後 5 時 00 分 土曜日：午前 8 時 30 分～午前 12 時 00 分 休日（日曜日、祝日）、年末年始は搬入しない。</p> <p>【運転時間】</p> <p>受入貯留設備 : 6 日/週、6 時間/日（土曜日：3 時間/日） 主処理設備 : 7 日/週、24 時間/日 高度処理設備 : 7 日/週、24 時間/日 資源化設備 : 5 日/週、6 時間/日 脱臭設備 : 7 日/週、24 時間/日</p>

## 生活環境影響調査項目と調査地点



# 生活環境影響調査の結果

## ■大気質（し尿等の運搬車両の走行）

現地 調査結果	・し尿等の運搬車両の走行ルート上の道路沿道における大気質の現地調査結果は、いずれの物質も環境基準を下回っていました。			
	調査項目	調査結果(期間平均値)	環境基準	
	二酸化窒素	0.010 ppm	0.04~0.06 ppm 以下	
	浮遊粒子状物質	0.019 mg/m <sup>3</sup>	0.10 mg/m <sup>3</sup> 以下	
予測結果・ 影響の 分析結果	・本施設の稼働に伴い走行するし尿等の運搬車両台数は45台/日(片道)程度であり、し尿等の運搬車両による大気質の予測結果は環境保全目標を下回ることから、生活環境の保全上の目標との整合性は図られているものと評価します。			
	○二酸化窒素			
	予測地点	予測結果(日平均値の年間98%値)	環境保全目標(環境基準)	
	地点1	北側	0.023544 ppm	0.04 ppm 以下
		南側	0.023392 ppm	
	地点2	北側	0.023544 ppm	
		南側	0.023485 ppm	
	○浮遊粒子状物質			
	予測地点	予測結果(日平均値の2%除外値)	環境保全目標(環境基準)	
	地点1	北側	0.047303 mg/m <sup>3</sup>	0.10 mg/m <sup>3</sup> 以下
南側		0.047290 mg/m <sup>3</sup>		
地点2	北側	0.047303 mg/m <sup>3</sup>		
	南側	0.047298 mg/m <sup>3</sup>		

## ■騒音（施設の稼働）

現地 調査結果	・事業予定地敷地境界における騒音の現地調査結果は、地点2の平日、休日の夜間で参考基準を超過していました。それ以外の地点及び時間区分では参考基準を下回っていました。基準超過の原因としては、国道192号の道路交通騒音が原因と考えられます。				
	単位：デシベル				
	調査地点	調査日	時間区分	調査結果	参考基準 <sup>注1)</sup>
	地点1	平日	昼間	46	55
			夜間	42	45
		休日	昼間	42	55
			夜間	42	45
	地点2	平日	昼間	52	55
			夜間	48	45
		休日	昼間	50	55
夜間			51	45	
注1) 調査地点は用途地域の定めのない地域であり環境基準は適用されませんが、参考として、周辺の土地利用を踏まえ、環境基準B類型の基準値を記載しています。					
注2) 着色は、参考基準超過を示しています。					
予測結果・ 影響の 分析結果	・予測結果はすべての予測地点でいずれの時間帯においても環境保全目標を下回っており、生活環境の保全上の目標との整合性は図られているものと評価します。				
	単位：デシベル				
	予測地点	予測結果		環境保全目標 <sup>注)</sup>	
		昼間	夜間		
	地点1	28.2	28.2	朝・夕：50 昼間：55 夜間：45	
地点2	13.1	12.3			
敷地境界における騒音レベルの最大値	40.7	40.6			
注) 騒音規制法に基づく特定工場に係る騒音の規制基準（第2種区域）					

# 生活環境影響調査の結果

## ■騒音（し尿等の運搬車両の走行）

現地調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>し尿等の運搬車両の走行ルート沿道における道路交通騒音の現地調査結果は、いずれの地点もすべての時間帯で参考基準を上回っていました。</li> <li>現地調査地点周辺における既存調査結果においても本現地調査結果と同程度の騒音レベルであることから、参考基準の超過については、本道路の傾向と考えられます。</li> </ul>				
	単位：デシベル				
	調査地点	時間区分	調査結果	参考基準 <sup>注1)</sup>	
現地調査結果	地点 3	昼間	71	70	
		夜間	67	65	
	地点 4	昼間	74	70	
		夜間	69	65	
<small>注1) 調査地点は騒音に係る環境基準の類型指定はされませんが、参考として道路交通騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間）を記載しています。 注2) 着色は、参考基準超過を示しています。</small>					
予測結果・影響の分析結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>本施設の稼働に伴い走行するし尿等の運搬車両台数は45台/日（片道）程度です。</li> <li>現況騒音レベルは、いずれの地点も環境基準を上回っており、予測結果についても、いずれの地点も環境保全目標を上回ることから、生活環境の保全上の目標との整合性は図られていませんが、し尿等の運搬車両の走行に伴う騒音レベルの増加量は、地点3で0.1デシベル、地点4で0.0デシベルと1デシベル未満であることから、し尿等の運搬車両の走行による騒音の影響は小さいものと評価します。</li> </ul>				
	単位：デシベル				
	調査地点	時間区分	騒音レベルの増加量	予測結果	環境保全目標 <sup>注)</sup>
予測結果・影響の分析結果	地点 3	昼間	0.1	71.1	70
	地点 4	昼間	0.0	74.0	
<small>注) 騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に近接する空間）</small>					

## ■振動（施設の稼働）

現地調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業予定地敷地境界における振動の現地調査結果はすべての地点で参考基準を下回っていました。</li> </ul>				
	単位：デシベル				
	調査地点	調査日	時間区分	調査結果	参考基準 <sup>注)</sup>
現地調査結果	地点 1	平日	昼間	< 30	60
			夜間	< 30	55
		休日	昼間	< 30	60
			夜間	< 30	55
	地点 2	平日	昼間	< 30	60
			夜間	< 30	55
休日		昼間	< 30	60	
		夜間	< 30	55	
<small>注) 調査地点は規制基準は適用されませんが、周辺の土地利用を踏まえ、参考として、振動規制法に基づく特定工場にかかる振動の第一種区域の規制基準を記載しています。</small>					
予測結果・影響の分析結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>予測結果はすべての予測地点でいずれの時間帯においても環境保全目標を下回っており、生活環境の保全上の目標との整合性は図られているものと評価します。</li> </ul>				
	単位：デシベル				
	予測地点	予測結果		環境保全目標 <sup>注)</sup>	
予測結果・影響の分析結果		昼間	夜間	昼間：60 夜間：55	
	地点 1	36.9	36.9		
	地点 2	33.3	33.3		
	敷地境界における振動レベルの最大値	52.3	52.3		
<small>注) 振動規制法に基づく特定工場に係る規制基準（第一種区域）</small>					

# 生活環境影響調査の結果

## ■振動（し尿等の運搬車両の走行）

・し尿等の運搬車両の走行ルート沿道における道路交通振動の現地調査結果は、いずれの地点もすべての時間帯で参考基準を下回っていました。

単位：デシベル

調査地点	時間区分	調査結果	参考基準 <sup>注)</sup>
地点 3	昼間	36	65
	夜間	31	60
地点 4	昼間	37	65
	夜間	30	60

注) 調査地点は振動規制法に基づく要請限度は適用されませんが、参考として第一種区域の限度を記載しています。

## 予測結果・影響の分析結果

・本施設の稼働に伴い走行するし尿等の運搬車両台数は45台/日（片道）程度であり、し尿等の運搬車両による振動の予測結果は環境保全目標を下回ることから、生活環境の保全上の目標との整合性は図られているものと評価します。

単位：デシベル

予測地点	時間帯 <sup>注1)</sup>	振動レベルの増加量	予測結果	環境保全目標 <sup>注2)</sup>
地点 3	13 時台	0.2	35.2	65
地点 4	13 時台	0.2	38.2	

注1) 一般交通に対してし尿等の運搬車両台数の比率が高く、振動レベルの増加量が最も大きくなる時間帯。

注2) 道路交通振動の要請限度（第1種区域）

## ■悪臭（施設からの悪臭の漏洩、臭突による影響）

・悪臭の現地調査結果は、すべての地点で参考基準を下回っており、臭気指数も10未満でした。

調査項目	調査結果
特定悪臭物質	すべての地点で参考基準 <sup>注)</sup> を下回っています
臭気指数	すべての地点で10未満

注) いずれの地点も悪臭防止法に基づく特定悪臭物質濃度の規制地域には該当しないため規制は適用されませんが、参考として徳島県が定める悪臭防止法に基づく規制基準と比較しました。

## 予測結果・影響の分析結果

### ◆施設からの悪臭の漏洩

・本事業では、施設からの悪臭防止対策として以下の対策を講じる計画です。

- ・脱臭設備の設置
- ・建屋の密閉化
- ・建屋内での臭気の捕集と処理
- ・受入前室の設置
- ・受入室のオートドア（自動シャッター）の採用

・類似施設（現有施設）の事例を見ると、特定悪臭物質濃度について、いずれの地点もすべての項目で環境保全目標（悪臭防止法に基づく特定悪臭物質の規制基準）を下回るものと予測します。以上より、計画施設で実施する悪臭防止対策の内容及び類似施設（現有施設）の予測結果は、環境保全目標を下回ることから、生活環境の保全上の目標との整合性は図られているものと評価します。

項目	予測結果	環境保全目標
特定悪臭物質濃度	すべての地点で環境保全目標を下回っています	悪臭防止法に基づく特定悪臭物質濃度の規制基準

### ◆臭突による影響

・事業予定地周辺で濃度が最も高くなる地点（煙突位置から100m）での予測結果について、特定悪臭物質はすべての項目で環境保全目標を下回ることから、生活環境の保全上の目標との整合性は図られているものと評価します。

項目	予測結果	環境保全目標
特定悪臭物質濃度	事業予定地周辺で濃度が最も高くなる地点（煙突位置から100m）で環境保全目標を下回っています	悪臭防止法に基づく特定悪臭物質濃度の規制基準

# 生活環境影響調査の結果

## ■水質（施設からの処理水の放流）

- ・河川水質の調査結果は、秋季調査の地点2における大腸菌群数を除く、それ以外の項目が環境基準に適合しています。
- ・大腸菌群数の環境基準超過について、令和元年度～令和2年度（12月まで）における浄化センターの排水の調査結果を確認すると、令和元年7月19日で15個/cm<sup>3</sup>が検出されているものの、その他の調査月ではいずれも0個/cm<sup>3</sup>となっていることから、大腸菌群数の環境基準超過については、排水の影響による可能性は低いと考えられます。

### 現地調査結果

項目	地点	調査結果				環境基準 <sup>注1)</sup>
		春季	夏季	秋季	冬季	
BOD (mg/L)	放流地点上流	< 0.5	0.6	< 0.5	< 0.5	2 以下
COD (mg/L)		1.4	1.4	0.8	0.8	-
SS (mg/L)		< 1	< 1	< 1	< 1	25 以下
T-N (mg/L)		0.28	0.23	0.31	0.31	-
T-P (mg/L)		0.008	0.013	0.007	0.005	-
溶存酸素 (DO)		11.0	9.1	11.1	12.1	7.5mg/L 以上
水素イオン濃度		7.8	8.1	8.1	7.7	6.5 以上 8.5 以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)		490	280	220	130	1,000 以下
n-ヘキサン抽出物質 (mg/L)		< 1	< 1	< 1	< 1	-
健康項目		-	-	-	環境基準に適合	環境基準に適合すること
ダイオキシン類		-	-	-	0.06	1pg-TEQ/L

項目	地点	調査結果				環境基準 <sup>注1)</sup>
		春季	夏季	秋季	冬季	
BOD (mg/L)	放流地点下流	< 0.5	0.9	< 0.5	< 0.5	2 以下
COD (mg/L)		1.2	1.6	0.6	0.7	-
SS (mg/L)		< 1	< 1	< 1	< 1	25 以下
T-N (mg/L)		0.26	0.26	0.30	0.29	-
T-P (mg/L)		0.008	0.011	0.006	0.005	-
溶存酸素 (DO)		11.2	9.1	11.8	12.4	7.5mg/L 以上
水素イオン濃度		7.8	8.1	8.1	7.7	6.5 以上 8.5 以下
大腸菌群数 (MPN/100mL)		490	11	2,200	79	1,000 以下
n-ヘキサン抽出物質 (mg/L)		< 1	< 1	< 1	< 1	-
健康項目		-	-	-	環境基準に適合	環境基準に適合すること
ダイオキシン類		-	-	-	0.06	1pg-TEQ/L 以下

注1) 調査地点は、環境基準A類型に該当します。

注2) 着色は、環境基準超過を示しています。

### 予測結果・影響の分析結果

- ・いずれの季節もすべての項目で環境保全目標が適用される項目については、環境保全目標を下回ると予測されることから、生活環境の保全上の目標との整合性は図られているものと評価します。

項目	地点	予測結果				環境保全目標 <sup>注2)</sup>
		春季	夏季	秋季	冬季	
BOD (mg/L)	施設排水合流後	0.5	0.6	0.5	0.5	2 以下
COD (mg/L)		1.4	1.4	0.8	0.8	-
SS (mg/L)		1	1	1	1	25 以下
T-N (mg/L)		0.26	0.23	0.31	0.31	-
T-P (mg/L)		0.008	0.013	0.007	0.005	-
大腸菌群数 (MPN/100mL)		490	280	220	130	1,000 以下
健康項目		-	-	-	環境保全目標を下回る	環境基準を下回る
ダイオキシン類		-	-	-	0.06	1pg-TEQ/L 以下

注1) 予測結果は、放流地点上流の河川水質に施設排水の水質を付加して算出しました。

注2) 水質及びダイオキシン類に係る環境基準

## お問い合わせ先

みよし広域連合  
〒779-4806 徳島県三好市井川町西井川 906 番地  
TEL : 0883-78-2167 FAX : 0883-78-2035  
お問合せ時間：平日 8：30～17：15